

# 日々の祈り

2021年12月13日(月)~18日(土)

宮崎中部教会



## <はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

## <使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

## <今週の祈りの課題>

- ・この世に来て下さった神の御子イエスさまを覚えて、悔い改めと感謝をもってアドベントの日々を歩むことが出来るように。
- ・一人でも多くの者が礼拝に招かれ、共にクリスマスの恵みを受け取ることが出来るように。
- ・教会の「アドベントブック」に従って、兄弟姉妹の名前をあげてお祈りしましょう。

## 13日(月)

ルカによる福音書 19章 45~46節

それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで商売をしていた人々を追い出し始めて、彼らに言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』／ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした。」

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。神さまが求めておられることは、すべての者が祈りの家に集い、神さまとの親しい交わりに生きようになることです。神さまは、どのような罪人であっても、一人も滅びることを望まれません。そのためにこそ御子イエスさまは来られ、ご自分の命をも罪人のために与えて下さるのです。神さまは、わたしたちがその御心を受け取り、心からの愛と祈りを神さまにささげる者となることを望んでおられます。

## 14日(火)

ホセア書 14章 5節

わたしは背く彼らをいやし／喜んで彼らを愛する。まことに、わたしの怒りは彼らを離れ去った。

ホセア書の前半で神さまは、裏切り、背き、拒んだ民の罪を、厳しく告発なさいます。しかし、民を憐れみ、愛し、どうしても見捨てることが出来ない神さまは、「激しく心を動かされ／憐れみに胸を焼かれ」ながら(11:8)、「立ち帰れ」と呼びかけて下さいます。そして、「背く彼らをいやし、喜んで彼らを愛そう」と語られます。神さまが、どれほどご自分の民を愛しておられるか。どれほどわたしたちを愛しておられるか。そのために、どれだけのことをして下さったか。どうか、わたしたちが神さまの御心を、この愛を、悟ることが出来ますように。

15日(水)

ルカによる福音書 2章 14節

「いと高きところには栄光、神にあれ、／地には平和、御心に適う人にあれ。」

天使がイエスさまご降誕の知らせを羊飼いに告げた時、天の軍勢が賛美しました。「いと高きところには栄光、神にあれ。地には平和、御心に適う人にあれ。」…「御心に適う人」とは、神さまが気に入る人、という意味ではありません。それは、神さまの愛による救いの御心を、受け入れる人のこと。神さまが遣わされたイエスさまを救い主と信じ、喜んで迎え入れる人のことです。そこにこそ、「地には平和」。神さまと共にある、まことの平和がもたらされます。

16日(木)

マタイによる福音書 1章 23節

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

インマヌエル。神は我々と共におられる。このことを実現するために、神の御子イエスさまは、天から低く降り、弱く、小さく、貧しい者となって、わたしたちのこの世に来て下さいました。そして、神さまから離れてしまったわたしたちを捜し出し、わたしたちの罪を担い、ご自分の命を与えてわたしたちを生かし、神さまの許に連れ帰り、わたしたちを神と共に生きる者として下さったのです。インマヌエル。わたしと、共におられる神です。

17日(金)

イザヤ書 9章 5～6節

ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれました。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神／永遠の父、平和の君」と唱えられる。ダビデの王座とその王国に権威は増し／平和は絶えることがない。王国は正義と恵みの業によって／今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。

次の主日礼拝の御言葉です。この地上に、わたしたちの救い主、平和の王が与えられる、という預言です。これらのことを成し遂げるのは「万軍の主の熱意」です。神さまご自身が、心を燃やし、熱心になり、力を尽くして、絶えることがない平和をわたしたちに与えるために、神の国を来たらせて下さるのです。この万軍の主の熱意のゆえに、ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれました。

18日(土)

マタイによる福音書 2章 9～11節

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

明日のクリスマス礼拝の御言葉です。異国の学者たちは、ひれ伏して幼子を拝み、自分たちの最も大切な宝物を献げました。この幼子こそ、神さまの救いを実現し、世にまことの平和、神の恵みの支配をもたらす救い主だからです。わたしたちも、この方をわたしの救い主、わたしの平和の王と信じ、ひれ伏して拝み、神さまの救いの御業をほめたたえ、賛美の声をあげましょう。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』